2004 年度 委員会活動成果報告

（１７年　３月３１日作成）

委員会名	季節変動と水の資源精性利用 WG	主 査 名：高橋　達
所属本委員会 **（所属運営委員会）**	環境工学委員会（水環境小委員会）	委員長名：鉾井修一
設　置　期　間	平成１５年　４月～平成１７年　３月	
設　置　目　的 **各年度活動計画**	季節変動に伴って変化する水の資源性を多段階に活用する“くらし”（住まい方・建築技術の総合）について、都市や農村における実態調査やエクセルギー概念による研究、実践事例を整理し、現代社会に適用するための方法を明らかにする。初年度に収集した事例を整理し次年度に報告書作成･公開勉強会を開催する。	
委員構成 **（委員名（所属））**	高橋達（福岡工業大学）、黒岩哲彦（アルキクテクタ）、星名康弘（グリーンシグマ）、伊藤親臣（雪だるま財団）、清水徹（アトリエ縁）、早坂悦子（ロリーポップ）、長谷川秀夫（生薬醗酵研究所）	
設置 WG **（**WG **名：目的）**	**季節変動と水の資源性利用** WG**：季節変動に伴って変化する水の資源性を多段階に活用するくらしについて、都市や農村における実態調査やエクセルギー概念による理論的研究、実践事例を整理し、現代社会に適用するための方法を明らかにする。**	
2004 **年度予算**	４５，０００円	

項　　目	**自己評価**
委員会活動状況 **（開催日・参加人数）**	平成１５年は7月３日・4名、８月８日・４名、平成１６年は1月３１日・３名、平成１７年は9月６日・３名、１１月２日・３名など、主査（高橋）も含めて地方在住の委員が多く、また他の委員会、本職との兼ね合いの難しさから日程が合わなかったことから、開催会議数・参加人数とも少なくなってしまった。また、１７年春の新潟でのシンポジウム開催を準備し始めたところに、中越地震のため関係者の作業が完全に中断し、現在も本業の修復に専念せざるをえず、他地域での開催も参加者の関係から難しいため、遺憾ながら開催を見合わせている。
得られた成果	**（成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無）** **水の多段階活用の方法を整理するために必要ないかの事例を収集した。** **①横井戸・タネンボを用いて水（養分・水質）を多段階に活用する山間集落の実態調査、②伝統的雪室の実態調査（冷蔵）、③現代の雪室・雪冷房の実践事例（冷蔵・冷房冷源としての雪活用）、④水の蒸発作用を活用した住宅の採冷（蒸発を用いた冷源としての液体水）、⑤エクセルギーによる液体水・水蒸気と溶液の拡散能力（冷やす能力、養分を溶かす能力）の定式化の研究、⑥雨水・石鹸・竹炭の複合による低環境負荷型洗濯の実践・研究（雨水の溶解能力の活用）** **以上の成果の学術的・社会的価値は、これまで一般的には行なわれなかった水の多段階活用の可能性を示す資料を収集したことにある。**
	委員会 HP **アドレス：**
目標の達成度	**（当初の活動計画と得られた成果との関係）** **資料の収集はほぼ完了したが、地方在住委員・主査主体の委員会構成のため報告書作成・シンポジウム開催に至らず、報告書作成・シンポジウム開催という最終成果報告という目標は達成できなかった。このため、**WG **継続の申請は見合わせた。**
その他評価すべき事項	水の資源性を多段階に活用することの意義を示す資料を収集できたこと。